



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」 令和4年11月29日



「メタ認知」を高める

校長 小野木義浩

「メタ認知」とは、自分が認知していること（例えば、記憶・思考・学習したことなど）を客観的にとらえ、コントロールすることです。メタ認知の力を向上させることができれば、自分自身を冷静に、そして、客観的に見ることができます。その結果、思い込みや感情に左右されずに行動したり、状況を適切に判断することができたり、目標達成や問題解決能力などを引き上げることができると考えられています。これからの社会をたくましく、しなやかに生きていくために、子供たちが身に付けたい力として「メタ認知」は注目されています。

メタ認知のイメージとしては、何かをしている自分を常にもう一人の自分が斜め上から冷静に見ているような状態です。自分の言動について、もう一人の自分が客観的な立場から、その言動を把握、コントロールする能力を「メタ認知」と定義しています。

子供たちが生きるこれからの社会は予測がしにくく複雑になっていきます。そのような状況において、メタ認知が低い状態だと「何が分からないかも分からない」「何が問題で、どうやって解決に取り組むかわからない」という状態になってしまいます。俯瞰（ふかん：鳥の目のように高い位置から物事を見ること）して客観的にものごとを見ることができれば、どこが問題になっているのかがはっきりわかり、何をどうすればいいかという対処もしやすくなります。



自分を客観的に認識することは非常に重要です。できることやできないこと、強みや弱み、長所や短所など自分を適切に把握することもメタ認知です。自分を把握していることで自分を活かし、他人と協働しやすくなります。



学校では、「メタ認知」を高めるための一つの手立てとして、道徳の授業を中心に「物事を多面的・多角的にとらえること」「相手の立場、他者の立場に立てるように想像力を働かせて考えること」を大切にしています。**低学年では、「役割演技」を大切に**して、子供が登場人物になってやり取りをする中で、登場人物を通して、自分の気持ちや思いを表出させるようにしています。また、役割を交代することで相手の立場にたって考えたり、気持ちを想像したりしています。**高学年では、「思考ツール」を活用**して、複数の立場を見える化して客観的にとらえ考えたり、「もし、自分が相手の立場だったら」と想像したりしています。また、「**グループ交流**」を積極的に効果的に行い、交流を通して自分の考えを広げたり、深めたりしています。

11月30日（水）に1ブロック人権教育発表会を、三輪南小学校で行います。代表で2年1組「道徳」、3年3組「総合（高齢者の人権）」、6年3組「総合（外国人の人権）」で授業公開を行い、いくつかの小中学校の代表者や地域代表の方が参観します。メタ認知の高まり、人権を大切にしようとする思いや態度を見てもらいたいと思います。